

第2期中期経営計画 評価委員会での意見(集約)2022年度下期

経営戦略 (4つの姿勢)	重点 項目	16の具体的な取り組み	評価委員会の意見(集約)	下期 評価
I 利用者 に対する姿勢	I-1 はた らく・暮ら す・相談す る支援の 強化	①個別支援計画に基づいた自立 支援に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所の利用者アンケートの実施頻度はどれくらいか。 ・第3事業部の記述に「アンケート結果から課題が見いだされた」とあるが、具体的には何か。 	A
		②取りこぼさない、途切れない相 談支援に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会の運営について、就労支援部会の参加者が少ないと聞く。コンパスでリーダーシップを発揮していただきたい。 ・自立支援協議会の定例会で「家族支援」をテーマに取り上げたのは素晴らしい。ぜひ、今後も継続して協議してほしい。 	A
	I-2 支援 のスキル アップと サービス の質の向 上	③権利擁護、虐待防止の推進に 取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止チェックリストの項目を知りたい。資料として配布してほしい。 ・第三者評価の結果について、県のホームページだけでなく、虹の会のホームページにも掲載すべきではないか。 	A
		④学びによる「支援のプロ集団化」 を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・実践報告会について、法人内の専門職等が助言するしくみを作ってはどうか。 	A
	I-3 災害 対策・感 染症対策 の強化	⑤BCP(事業継続計画)を整備、 危機管理対策(災害・感染症)を強 化、必要に応じて他法人との連携 を強化します。	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスター発生時、どの段階で管理職が状況を共有し、意思決定を行うかもBCPに記載されてるか。 ・BCPは出来てもすぐには使えない。現場に即した運用を。 	B
II 人財に に対する姿勢	II-1 人財 の確保と 定着・育 成	⑥法人間連携を含む多様な採用 活動に取り組み、人財確保に努め ます。	<ul style="list-style-type: none"> ・求人サイトの活用について、成果がどの程度あって費用対効果はどうか、検証を。 	A
		⑦キャリアパスの強化と研修体系 を活用し、魅力ある職員の育成を 推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・新キャリアパスについて、採用活動時にも示していくと良いのではないか。 	A
	II-2 魅力 ある職場 づくり	⑧ICT化、アウトソーシング化を推 進し、業務の効率化を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの項目名と実際の取り組み内容が乖離している。「労働環境の改善」と表記するほうが良いのではないか。 	B

		⑨職員間コミュニケーションの活性化を推進します。	・事務局の報告に対して、評価委員からの質問、意見は特になし。	A
Ⅲ 法人マネジメントに対する姿勢	Ⅲ-1 新たな事業の展開と既存事業の見直し	⑩制度・地域の動向とニーズを見極め、既存事業を見直します。	・高齢利用者の支援も重要だが、高齢化した親のサポートも喫緊の課題ではないか。	A
		⑪制度・地域の動向とニーズを見極め、必要な事業を検討・実施します。	・新規事業が増えるが、現状、職員数は充足しているか。	B
	Ⅲ-2 経営の安定と強い組織づくり	⑫適正な収益を確保し安定した財政基盤を構築します。	・利用者の獲得について、見学はあるのに契約につながらないのはなぜか。何か見落としていることはないか。競争力が弱くなっているのか。 ・スクラップ&ビルドの「スクラップ」のほうが進んでいないのではないか。	A
		⑬社会的な責任と使命を果たすため、公正かつ適正な経営を可能とする組織統治を行ないます。	・事務局の報告に対して、評価委員からの質問、意見は特になし。	B
Ⅳ 地域社会に対する姿勢	Ⅳ-1 地域貢献に関する取り組み	⑭福祉課題・生活課題に主体的にかかわり、既存の制度では対応できない取り組みを推進します。	・生きづらさを抱える人たちの支援に関して、市内の企業との連携強化を検討いただきたい。	A
		⑮各事業所と地域とのつながり強化に取り組みます。	・事務局の報告に対して、評価委員からの質問、意見は特になし。	B
		⑯福祉教育を通じて各学校との連携を強化し、障がい理解を広げます。	・コロナ禍での学校との連携は難しかったと思うが、5類移行後は前向きに取り組みを進めていただきたい。	A
その他			・若手職員が内部評価委員になるしくみは良いが、この経営計画が全職員に浸透しているかが重要。 ・内部評価委員を、各事業所の「課題発見提案者」として位置づけるとよいのではないか。	